

2025年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、Xの罪責について論じなさい(ただし、特別法違反の点を除く)。(配点: 100点)

(設例)

- 1 Xは、娘M(13歳6か月)と二人で散歩をしていて、公園にさしかかったところ、ベンチの下に女性用の高級ブランドのハンドバッグが置かれていることに気がついた。ベンチには女性Aが座っており、夢中でスマートフォンを操作していて、ハンドバッグにはまったく気がついていない様子であった。
- 2 金に困っていたXは、Aがそのまま立ち去ったら、ハンドバッグを自分のものにしてしまおうと思いついたが、女性用のハンドバッグであったことから、自分が持ち去ると怪しまれると考えて、Mに、「ベンチに座っている女の人が立ち去ったら、ベンチの下に置いてあるハンドバッグを取っておいで」と指示した。
- 3 指示されたMは、はじめは他人のハンドバッグを取ってくるのは嫌だと言っていたが、Xが『お姉ちゃんのハンドバッグはここにあったんだ』と行って取ってくれば、怪しまれることはないから大丈夫。後で、ご褒美に好きな物を買ってあげるよ』といったので、Mは、しぶしぶ「わかった」と返事をした。
- 4 XとMは、付近を歩き回って木の陰から様子をうかがっていた。少しの間待っていると、Aは立ち上がり、そのまま最寄りの駅の方角に向かって歩き出した。Aがベンチから約30メートル離れたときに、まだAの後姿は見えていたが、Xは、周囲に人がいないことを確認して、Mに「今だ。ハンドバッグを取っておいで」と命じ、Mはその指示に従ってベンチまで歩いて行って、ベンチの下からハンドバッグを持ち帰り、Xに差し出した。Xは、怪しまれないために、Mにハンドバッグを持って歩くように指示し、ハンドバッグを持ったMとともに公園を出て自宅に戻った。
- 5 なお、XとMが持ち去ったハンドバッグはAの所有物ではなく、Aがベンチに座る前にBが置き忘れたものであった。XもMもその事実は知らなかった。